# 八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 稲用バインダー

現地の通称:

資料種別: ○製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類:
- ☐ 人力用具 ☒ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用
- ☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
- ☒ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素
- ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☒ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y147

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 久保田鉄工㈱

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年 1970年ごろ市販開始、

使用目的・使用方法等

水稲の刈取り、小束結束、地上放置
稲刈の機械化は、腰を屈めての重労働を解決する手段として待望の機種であり、好事家の個人開発も種々試みられ、それを生かして1966年ごろに人力バインダが井関農機から市販されて開発競争の先鞭をつけた。しかし、稲束が小束のために頻繁に結束する必要のある結束機構(ヘイベーラの結束機構のママでは不可能)が課題となり、久保田鉄工が数年を費やしてようやくＰＰ紐を使って解決し、高能率バインダを仕上げた。

利用経過収集記録意義等

1964年に農業構造改善事業が始まって機械化が急速に進み、その過程で生産されたが、間もなく、このバインダと全自動脱穀機を組み合わせて「自脱コンバイン」となった。

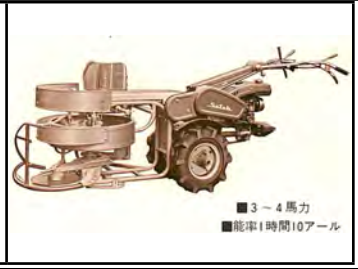
仕様書_解説等

クボタ式ＨＣ75Ｆ型自走式バインダ、3条刈(刈幅75cm)、能率10～15a/ｈ＝手刈の約10～15倍

右に全体図

参考写真：バインダの流れ
1：井関Ｒ１Ａ式手押稲刈結束機
2：井関ＲＨ10式動力稲刈結束機
3：井関式RB-50型バインダ1967年
4：佐藤HD100型刈取集束機1967年

外観特色関連図等




資料の所在

建物連絡通路

資料追記事項

資料管理経過

各部に腐食が見られ、錆の進行を止める対策が必要である。

作業メモ追記文



農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編